

大学番号：私587

注3

[平成21年度設置]

計画の区分：学部の設置

注1

届出

南九州大学 環境園芸学部

注2

【届出】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人 南九州学園

平成24年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名

職名・氏名 ガクムフチョウ ナカムラ ミノル
学務部長 中村 稔

電話番号 0985-83-3448

（夜間） 090-4349-6114

F A X 0985-83-3383

e-mail nakamura@nankyudai.ac.jp

（注）1 「計画の区分」は届出時基本計画書の「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

届出時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には認可時の旧名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、現在の名称を記載してください。

例） 〇〇大学 △△学部
（□□学部）

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例）

- ・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- ・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- ・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- ・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科（通信教育課程）」

※「留意事項実施状況報告書」の場合は、表題を修正してください。

3 大学番号の欄については、平成24年3月12日付事務連絡「大学等の設置に係る設置計画履行状況報告書の提出について（依頼）」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目 次

1. 調査大学等の概要等
2. 授業科目の概要
3. 施設・設備の整備状況, 経費
4. 既設大学等の状況
5. 教員組織の状況
6. 留意事項に対する履行状況等
7. その他全般的事項

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人 南九州学園

(2) 大学名

南九州大学

(3) 大学の位置

〒885-0035 (〒880-0032)

宮崎県都城市立野町3764番地 1 (宮崎県宮崎市霧島五丁目 1 番地 2)

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を () 書きで記入してください。
 ・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	届出時	変更状況	備考
理事長	(シブヤ ヨシオ) 澁谷 義夫 (平成9年4月)	(ハセガワ ジロウ) 長谷川 二郎 (平成21年4月)	理事互選による 平成21年4月1日 (21)
学長	(シブヤ ヨシオ) 澁谷 義夫 (平成9年4月)	(ハセガワ ジロウ) 長谷川 二郎 (平成21年4月)	任期満了による 平成21年4月1日 (21)
学部長	(ヤマガチ マサアツ) 山口 雅篤 (平成21年4月)		
学科長等	(ヤマガチ マサアツ) 山口 雅篤 (平成21年4月)	(カワノブ シュウジ) 川信 修治 (平成23年4月)	人事異動による 平成23年4月1日 (23)

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を () 書きで記入してください。

(例) 平成 2 1 年度に報告済の内容 → (21)

平成 2 4 年度に報告する内容 → (24)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載 (昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正) するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・「事前伺い」により設置された学部等については、当該項目を記載する必要はありません。

(5) 調査対象学部等の名称，定員，入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部学科または研究科の専攻等，定員を定めている組織ごとに記入してください。
 ・ 様式は，平成21年度開設の4年制の学科の場合（平成24年度までの4年間）ですが，開設年度・修業年限に合わせて作成してください。（修業年限が3年以下の場合には欄を削除し，5年以上の場合には，欄を設けてください。）

(5) - ① 調査対象学部等の名称，定員

調査対象学部等の名称（学位）	設置時の計画				備考
	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
環境園芸学部 環境園芸学科 学士（農学）	4年	130人	年次人	520人	

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

対象年度 区分	平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度		平均入学定員 超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	130人 (0) [0]	0人 (0) [0]	130人 (0) [0]	0人 (0) [0]	130人 (0) [0]	0人 (0) [0]	130人 (0) [0]	0人 (0) [0]	0.87倍	
志願者数	162 (0) [0]	0 (0) [0]	172 (0) [0]	0 (0) [0]	146 (4) [0]	0 (0) [0]	168 (1) [0]	0 (0) [0]		
受験者数	160 (0) [0]	0 (0) [0]	170 (0) [0]	0 (0) [0]	146 (4) [0]	0 (0) [0]	168 (1) [0]	0 (0) [0]		
合格者数	159 (0) [0]	0 (0) [0]	168 (0) [0]	0 (0) [0]	146 (4) [0]	0 (0) [0]	166 (1) [0]	0 (0) [0]		
B 入学者数	109 (0) [0]	0 (0) [0]	112 (0) [0]	0 (0) [0]	110 (4) [0]	0 (0) [0]	127 (4) [0]	0 (0) [0]		
入学定員超過率 B/A	0.84		0.86		0.84		0.97			

- (注) ・ 数字は，平成24年5月1日現在の数字を記入してください。
 ・ () 内には，編入学の状況について外数で記入してください。なお，編入学を複数年次で行っている場合には，(())書きとするなどし，その旨を「備考」に付記してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ [] 内には，留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 留学生については，「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により，我が国の大学（大学院を含む。），短期大学，高等専門学校，専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など，定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は，春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は，その他の学期欄は「-」を記入してください。また，その他の学期に入学定員を設けている場合は，備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については，各年度の春季入学とその他を合計した入学定員，入学者数で算出してください。なお，計算の際は小数点以下第3位を切り捨て，小数点第2位まで記入してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には，開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお，計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

学年	平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度		備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	[0] 110	[0] 0	[0] 112	[0] 0	[0] 110	[0] 0	[0] 127	[0] 0	
2年次	[0] 0	[0] 0	[0] 110	[0] 0	[0] 108	[0] 0	[0] 110	[0] 0	
3年次	/		[0] 0	[0] 0	[0] 111	[0] 0	[0] 109	[0] 0	
4年次	/		/		[0] 0	[0] 0	[0] 108	[0] 0	
計	[0] 110	[0]	[0] 222	[0]	[0] 329	[0]	[0] 454	[0]	

- (注) ・ 数字は、平成24年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ []内には、留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。

(5) 調査対象研究科等の名称, 定員, 入学者の状況等「該当なし」

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください。
 ・ 様式は, 平成22年度開設の博士後期課程の場合(平成24年度までの3年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が2年以下の場合には欄を削除し, 4年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象研究科等の名称, 定員

調査対象研究科等の名称(学位)	設置時の計画			備考
	修業年限	入学定員	収容定員	
○○研究科 ○○専攻(○○課程) 修士(○○) 又は 博士(○○)	年	人	人	基礎となる学部等

- (注) ・ 「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前的人数, 変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。

(5) - ② 調査対象研究科等の入学者の状況

区分	平成22年度		平成23年度		平成24年度		平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	() []	倍						
志願者数	() []							
受験者数	() []							
合格者数	() []							
B 入学者数	() []							
入学定員超過率 B/A								

- (注) ・ 数字は, 平成24年5月1日現在の数字を記入してください。
 ・ ()内には, 社会人の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 「社会人」については, 届出書において貴学が定める社会人の定義に従って記入してください。
 ・ []内には, 留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む。), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は, その他の学期欄は「-」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については, **各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出**してください。なお, 計算の際は**小数点以下第3位を切り捨て, 小数点第2位まで記入**してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「**入学定員超過率**」と同様にしてください。

(5) -③ 調査対象研究科等の在学者の状況

学 年	報告年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	
2年次	/		[]	[]	[]	[]	[]	[]	
3年次	/		/		[]	[]	[]	[]	
計	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	

- (注) ・ 数字は、平成24年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

2 授業科目の概要

<環境園芸学部 環境園芸学科>

(1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備 考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
人間と文化	フレッシュマンアワー	1前 1後 1前	1									教育効果に配慮し、配当年次を変更(21)
	言葉と文章	1後 1前		2								教育効果に配慮し、配当年次を変更(21)
	心理学概論	1後 1前		2								教育効果に配慮し、配当年次を変更(22)
	哲学	1前 1後 1前		2								教育効果に配慮し、配当年次を変更(21)
	倫理学	1前 1後		2								教育効果に配慮し、配当年次を変更(23)
	宗教学	1後 1前 2前		2								教育効果に配慮し、配当年次を変更(23)
	美術史	1後 1前		2								教育効果に配慮し、配当年次を変更(21)
	歴史と現代	1前		2								
	歴史と社会	1後		2								
	日本国憲法	1後 2前		2								教育効果に配慮し、配当年次を変更(21)
社会学	1後		2									
経済学	1前		2									
科学と現代	生物学の基礎	1前		2		1						兼任教員の都合により、専任教員に変更(21) 担当 山口雅篤(教授)
	生物の世界	1後		2		1						兼任教員の都合により、専任教員に変更(22) 担当 山口雅篤(教授)
	化学の基礎	1前		2								
	化学の世界	1後		2								
	物理学の基礎	1前		2								
	物理の世界	1後		2								
	地学の基礎	1前		2								
	地学の世界	1後		2								
	統計学	1後		2								
	数学	1後		2								
情報処理論 I	1前・後		2									
情報処理論 II	2前・後		2									
外国語	英語コミュニケーション I	1前 2前		2 4								教育効果に配慮し、配当年次を変更(21)
	英語コミュニケーション II	1後 2後		2 4								教育効果に配慮し、配当年次を変更(21)

科目区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養科目	保健講義	1後		2									
	体育実技	1通		2									
専門基礎科目	環境園芸概論	1前	2			6	1					教育効果に配慮し、専任教員を追加(21) 担当 渡辺昭治(教授)、杉本和宏(教授)、平岡直樹(教授)、徳原隆(准教授)	
	環境園芸実験実習Ⅰ	1前	2			2	1						
	環境園芸実験実習Ⅱ	1後	2				3						
	環境科学	1前										教育効果に配慮し、配当年次を変更(23)	
		1後	2										
	生命科学	1前										教育効果に配慮し、配当年次を変更(21)	
		1後	2			1							
	植物資源科学	1後	2			1							
		1後	2										
	技術者倫理	1後	2										
	専門必修科目	専攻演習Ⅰ	3後	2			12		1				
			9	9	3								
		専攻演習Ⅱ	4前	2			12		1				
			9	9	3								
専攻演習Ⅲ		4後	2			12		1				専任教員追加及び職位変更(22)	
	9	9	3										
	卒業論文	4通	6			12		1					
		9	9	3									
専門教育科目	植物学	1前		2		1							
	環境気象学	1前		2									
	微生物学	1前		2		1	1					職位変更(22)	
		1前										教育効果に配慮し、配当年次を変更及び専任教員を追加(22) 担当 日高英二(准教授)	
		1後					1					教育効果に配慮し、配当年次を変更(21)	
	樹木学	1前		2								教育効果に配慮し、配当年次を変更(23)	
		1後		2		1							
	植物生理学	1後		2		1							
	土壌学	1後		2			1		1			職位変更(22)	
	造形デザイン演習	1後		2		1						教育効果に配慮し、専任教員を追加(22) 担当 永松義博(教授)	
	作物栽培学	1後		2		1							
	博物館概論												
	博物館学概論	1後		2		1						学芸員資格規定変更の理由により科目名を変更(24)	
	学外研修(環境園芸)	2前		2		1	1					他学部科目との区別のため、科目名を変更(21)	
	アグリビジネス論	2前		2									
	遺伝育種学概論	2前		2		1							
	園芸生産環境専門実習	2前		2		2	2	1					
	ガーデニング概論	2前		2			1						
	花卉園芸総論	2前		2			1						
	果樹園芸総論	2前		2									
	環境アセスメント論	2前		2									
	環境保全型農業論	2前		2		1							
環境緑地論	2前		2		1								
基礎製図実習	2前		2			1		1			職位変更(22)		
グリーンツーリズム論	2前		2		1								
昆虫学	2前		2				1						
細胞工学	2前		2		1								
	2後												
自然環境実習	2前		2				1				教育効果に配慮し、配当年次を変更(22)		
植物生態学	2前		2										

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	植物病理学	2前		2		1	+					職位変更(22)
	生物化学	2前		2		1						
	造園植栽論	2前		2			1					
	測量学Ⅰ	2前		2			1					教育効果に配慮し、専任教員を追加(22) 担当 日高英二(准教授)
	測量学実習Ⅰ	2前		2			1					教育効果に配慮し、専任教員を追加(22) 担当 日高英二(准教授)
	蔬菜園芸総論	2前		2			1					
	地産地消論	2前		2		1						
	農産物流通原論	2前		2		1	+					職位変更(22)
	ピオトープ論	2前		2			1					
	フラワー実習	2前		2			1		1			
	遺伝子工学	2後		2		1	+					職位変更(22)
	園芸生産環境実験	2後		2		2	2		1			
	造園ガーデニング実習Ⅰ											
	ガーデニング実習	2後		2			1		1			教育効果に配慮し、科目名称を変更(23)
	花卉園芸各論	2後		2			1					
	花卉専門実習	2後		2			1					
	果樹園芸各論	2後		2								
	環境哲学	2後		2			1		+			職位変更(22)
	環境農業経営論	2後		2		1						
	環境保全園芸論	2後		2		1						
	環境保全専門実習	2後		2		1	1		1			
	コンピュータ演習	2後		2			2					
	細胞・分子生物学実験	2後		2		1						
	作物学各論Ⅰ	2後		2		1						
	作物専門実習	2後		2		1						
	自然緑地計画論	2後		2		1						
	自然緑地計画論演習	2後		2		1						
	樹木医学	2後		2				1				教育効果に配慮し、専任教員を追加(22) 担当 日高英二(准教授)
			2後									教育効果に配慮し、配当年次を変更(22)
			3前									教育効果に配慮し、配当年次を変更(21)
	植物バイオテクノロジー		2後		2		1					
	植物バイオテクノロジー実験		3前		2		1					教育効果に配慮し、配当年次を変更(22)
			2前									教育効果に配慮し、配当年次を変更(23)
	植物分類学		2後		2							
森林政策学		2後		2	1							
世界の庭園と歴史		2後		2	1	1					教育効果に配慮し、専任教員を追加(22)	
造園材料施設論		2後		2		1						
造園緑地実験Ⅰ		2後		2		1						
		3後									教育効果に配慮し、配当年次を変更(22)	
総合防除論		2後		2		1	2					
測量学Ⅱ		2後		2			1				教育効果に配慮し、専任教員を追加(22) 担当 日高英二(准教授)	
測量学実習Ⅱ		2後		2			1				教育効果に配慮し、専任教員を追加(22) 担当 日高英二(准教授)	
蔬菜・果樹専門実習		2後		2			1					
蔬菜園芸各論		2後		2			1					
		2前									教育効果に配慮し、配当年次を変更及び専任教員を追加(22)	
庭園学		2後		2		1	+				担当 永松義博(教授)	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目 専門選択科目	庭園学演習	2前 2後		4			1					教育効果に配慮し、配当年次を変更及び専任教員を追加(22) 担当 永松義博(教授)
	動物生態学	3前 2後		2			1					教育効果に配慮し、配当年次を変更(22)
	土壌学各論	2後		2			+		+			教育効果に配慮し、配当年次を変更及び職位変更(22)
	農業協同組合論	2後		2								
	農産物流通論	2後		2		1	+					職位変更(22)
	水辺環境論	2後		2		1						
	博物館学各論	2通		4								学芸員資格規定変更の理由により科目名を廃止(24)
	教育学概論	2後		2								学芸員資格規定変更の理由により科目名を廃止(24)
	遺伝子工学実験	3前		2		1	+					職位変更(22)
	園芸療法実習	3前		2					1			
	園芸療法論	3前		2					1			
	ガーデニング植物材料論	3前		2		1	+					教育効果に配慮し、専任教員を追加(22) 担当 永松義博(教授)
	環境関連法	3前		2					1			
	環境教育実習	3前		2								
	環境植物論	3前		2								
	環境調査及び再生論	3前		2		1						
	景観論	3前		2		1						
	コンピュータ・CAD演習	3前		2			1		+			職位変更(22)
	作物学各論Ⅱ	3前		2		1						
	敷地計画論	3前		2				1				
	敷地計画論演習	3前		4				1				
	自然体験実習	3前		2								
	種苗生産学	3前		2			1					
	植物育種学Ⅰ	3前		2		1						
	植物生殖・発生学	3前		2		1						
	造園管理学	3前		2			1		1			
	造園施工実習	3前		2		1						
	造園緑地実験Ⅱ	3前		2			1					
	造園ガーデニング実習Ⅱ											教育効果に配慮し、科目名称を変更(23)
	造園緑地実習	3前		2		1	2		+			職位変更及び専任教員追加(22) 担当 平岡直樹(教授)、竹内真一(准教授)
	地域計画論	3前 2後		2			1					教育効果に配慮し、配当年次を変更(22)
	動物分類学	2通		2			1					
	熱帯植物論	3前		2								
	農業機械学	3前		2								
	農産物貿易論	3前		2		1	+					職位変更(22)
	農村調査実習	3前		2		1	1					
	肥料学	3後 2通		2			1		+			教育効果に配慮し、配当年次を変更及び職位変更(22)
	分子育種学	3前		2			1					
	保全生物学	3前		2								
	水辺環境論実習	3前		2	1							
緑化工学	3前		2			1						
農業史	3前		2	1								
生涯学習概論	3前		2	+							学芸員資格規定変更の理由により単位数を変更(24)	
アジア農産物貿易論	3後		2		1	+					職位変更(22)	
インターンシップ	3通		2		1	1						
園芸利用学	3後		2		1							
ガーデニング特別実習	3後		2			2		+			教育効果に配慮し、担当者を変更(22)	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
	環境緑地論実習	3後		2		1						
	建築学概論	3後		2			1	1				職位変更 (22)
	国外研修	3通		2			2	2				職位変更 (22)
	施設園芸学	3後		2			1					
	植物育種学Ⅱ	3後		4		1						
	生体成分分析実験	3後		2		1						
	生物統計学	3後		2		1						
	造園管理学実習	3後		2			1					
	動物生理学	3後		2			1					
	都市計画論	3後		2		1						
	都市緑地論	3後		2			1					
	都市緑地論演習	3通		4			1					
	農業機械実習	3後		1								教育効果に配慮し、単位数を変更 (22)
	農業法人論	3後		2		1						教育効果に配慮し、配当年次を変更 (23)
	農業科学	3前		2		1						職位変更 (22)
	ハーブ園芸論	3後		2		1						
	微生物利用学	3後		2		1	1					
	盆栽論	3後		2								
	応用数学	3通		4								
	博物館経営論	3後		2								学芸員資格規定変更の理由により科目を追加 (24)
	博物館資料論	2前		2								学芸員資格規定変更の理由により科目を追加 (24)
	博物館資料保存論	3前		2								学芸員資格規定変更の理由により科目を追加 (24)
	博物館展示論	2後		2								学芸員資格規定変更の理由により科目を追加 (24)
	博物館教育論	2後		2								学芸員資格規定変更の理由により科目を追加 (24)
	博物館実習	3通		3		1						教育効果に配慮し、専任教員を追加 (22) 担当 澁谷義夫 (教授) 教育課程充実の理由により教員を変更 (24) 担当 北村泰一 (教授)
	博物館・情報メディア論			2								学芸員資格規定変更の理由により科目名及び単位数を変更 (24)
	視聴覚メディア論	3後		1								
	科学英語	3後		2		1						

- (注) ・ 届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
・ 届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時(平成23年度に届出された大学等は届出時)より変更されているものは赤字見え消し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
なお、昨年度の報告書において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
・ 「配当年次」について、届出時に開講時期を記載する必要がなかった学部等(平成19年度届出以前)についても、届出時の状況を黒字で記入してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え消し修正をしてください。
・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

(2) 授業科目数

届出時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	
12	160	0	172	12	163	0	175	
				[0]	[+3]	[0]	[+3]	

- (注) ・ 未開講である場合や、配当年次に関わらず、教育課程上の授業科目数を記入する(資格に関する課程など、別課程としている授業科目については算入する必要はありません。)とともに、[]内に、届出時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由，代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 届出時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず，何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお，理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については，記入しないでください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由，代替措置の有無
1	博物館学各論	2	2通	専門	選択	学芸員資格規定の変更による。代替措置有
2	教育学概論	2	2後	専門	選択	学芸員資格規定の変更による。代替措置有
3						

- (注) ・ 届出時の計画にあり，何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお，理由については可能な限り具体的に記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

法令改正により平成24年度入学生から学芸員資格に新规定が適用となり、科目を再編した。新入生にはオリエンテーション時に便覧等を利用して周知した。

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「届出時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目と廃止科目の計}}{\text{届出時の計画の授業科目数の計}} = \boxed{} \quad 0.01$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て，小数点第2位までを記入してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考			
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	フィールドセンターを 整備			
	校舎敷地	40,796㎡	0㎡	0㎡	40,796㎡				
	運動場用地	18,140㎡	0㎡	0㎡	18,140㎡				
	小 計	58,936㎡	0㎡	0㎡	58,936㎡				
	そ の 他	35,066㎡ 7,186㎡	0㎡	0㎡	35,066㎡ 7,186㎡				
	合 計	94,002㎡ 66,122㎡	0㎡	0㎡	94,002㎡ 66,122㎡				
(2) 校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
	19,064.05㎡ (19,064.05㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	19,064.05㎡ (19,064.05㎡)					
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	12室	31室	40室	2室 (補助職員 0人)	1室 (補助職員 0人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称		室 数			届出学部全体			
	環境園芸学部 環境園芸学科		22 室						
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機 械 ・ 器 具 点	標 本 点	大学全体	
	環境園芸学部	[] (121,361 [18,828])	[] (232 [54])	[] (1 [1])	(980)	(4,367)	(0)		
	計	[] (121,361 [18,828])	[] (232 [54])	[] (1 [1])	(980)	(4,367)	(0)		
(6) 図 書 館	面 積	閱 覧 座 席 数	収 納 可 能 冊 数						
	1,246.00㎡	189席	114,000冊						
(7) 体 育 館	面 積	体 育 館 以 外 の ス ポ ーツ 施 設 の 概 要							
	1,616.50㎡	グラウンド1面		テニスコート2面					
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	開設前年度の図書購入費 は人間発達学部と共用の 予定であったが、開設が 1年遅れたため修正 (22)
		教員1人当り研究費等	513千円	513千円	図書購入費	3,000 35,000千円	35,000 3,000千円	3,000千円	
	共同研究費等	1,064千円	3,541千円	設備購入費	100,000千円	25,000千円	25,000千円		
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
	1,300千円	1,068千円	1,070千円	1,080千円	一千円	一千円			
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経費補助金、資産運用収益、雑収入 等							

- (注) ・ 届出時の計画を、届出書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成24年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(24)」を「備考」に赤字で記入してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、黒字で記入してください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 - ・ 「事前伺い」により設置された学部等については、当該項目を記載する必要はありません。

4 既設大学等の状況

大学の名称	南九州大学								備考
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 定 員	編入 学 定 員	取 定 容 員	学位又 は称号	定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
園芸学部 園芸学科	4	—	—	—	学士（農学）		昭和42年度	宮崎県児湯郡高鍋町大字南高鍋11609	
環境造園学部 造園学科	4	—	—	—	学士（農学）		平成14年度	宮崎県児湯郡高鍋町大字南高鍋11609	
地域環境学科	4	—	—	—	学士（農学）		平成14年度		
健康栄養学部 管理栄養学科	4	60	—	240	学士（栄養学）	0.83	平成15年度	宮崎県宮崎市霧島5丁目1番地2	
食品健康学科	4	40	—	160	学士（食品学）	0.67	平成15年度		
人間発達学部 子ども教育学科	4	80	—	320	学士（教育学）	0.72	平成22年度	宮崎県都城市立野町3764番地1	
0.72									
大学の名称	南九州短期大学								
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 定 員	編入 学 定 員	取 定 容 員	学位又 は称号	定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
国際教養学科	2	125	—	250	短期大学士（国際教養）	0.96	平成15年度	宮崎県宮崎市霧島5丁目1番地2	

（注）・本調査の対象となっている大学等の設置者（学校法人等）が、設置している全ての大学の学部、学部の学科、短期大学の学科及び高等専門学校学科（AC対象学部等を含む）について、大学、短期大学又は高等専門学校ごとに、平成24年5月1日現在の状況を記入してください。

（専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。）

- ・「定員超過率」には、標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点第2位まで（小数点第3位を切り捨て）を、学科（短期大学において専攻課程を設置している場合には、専攻課程）単位で記入してください。
- ・学生募集を停止している学部等がある場合、入学定員と収容定員は「—」とし、「備考」に「平成〇年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

<環境園芸学部 環境園芸学科>

(1) 担当教員表 (共通)

届出時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	教授	長谷川 二郎	平成21年4月	生物学の基礎	専任	教授	山口 雅篤	平成21年4月	生物学の基礎	担当辞退(21)
				生物の世界	専任	教授	山口 雅篤	平成21年4月	生物の世界	担当辞退(22)
				環境科学	兼任	講師	山下 實	平成21年4月	環境科学	担当辞退(22)
				博物館実習	専任	教授	北村 泰一	平成23年4月	博物館実習	教育効果に配慮し、担当者を変更(23)
				植物分類学 環境植物論	専任	教授	渋谷 義夫	平成21年4月	博物館実習	担当辞退(22)
兼任	准教授	山里 哲史	平成21年4月	保健講義	兼任	講師	武野きく子	平成21年10月	保健講義	就任辞退(22)
				体育実技	兼任	教授	西村 盛正	平成21年4月	体育実技	平成21年度開設予定の学部が開設できなかったため未就任(21)
兼任	講師	平野 順也	平成22年4月	英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	兼任	講師	スモールブライツ	平成21年4月	英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	平成21年度開設予定の学部が開設できなかったため未就任(21)
兼任	講師	長谷川 武夫	平成21年4月	物理学の基礎 物理の世界	兼任	講師	若生 潤一	平成21年4月	物理学の基礎 物理の世界	就任辞退(21)
兼任	講師	大賀 郁夫	平成21年4月	歴史と現代 歴史と社会	兼任	講師	田村 理恵	平成21年4月	歴史と現代 歴史と社会	就任辞退(21)
兼任	講師	中林 健一	平成21年4月	化学の基礎 化学の世界	兼任	講師	國府 俊則	平成21年4月	化学の基礎 化学の世界	就任辞退(21)
兼任	講師	金 湛	平成21年4月	統計学 情報処理論Ⅰ 情報処理論Ⅱ	兼任	講師	古藤 総一郎	平成21年4月	情報処理論Ⅰ 情報処理論Ⅱ	担当辞退(21)
兼任	講師	佐保 忠智	平成21年4月	社会学	兼任	講師	林田 康子	平成21年10月	社会学	就任辞退(22)

(1) 担当教員表

届出時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専任	准教授	徳原 隆	平成21年4月	環境園芸実験実習Ⅱ	兼任	講師	金井 良一	平成23年10月	ガーデニング特別実習	教育効果に配慮し、担当者を変更(22)
				ガーデニング実習	兼任	講師	吉田 晋弥	平成23年10月	ガーデニング特別実習	
				ガーデニング概論	兼任	講師	横山 浩二	平成23年10月	ガーデニング特別実習	
				造園材料施設論 造園管理学 造園管理実習 ガーデニング特別実習 専攻演習Ⅰ 専攻演習Ⅱ 専攻演習Ⅲ 卒業論文						

届出時の計画					変更状況					備考	
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名		
専任	准教授	立澤 文見	平成21年4月	ハーブ園芸論 フラワー実習 ガーデニング植物材料論 ガーデニング実習 ガーデニング特別実習 専攻演習Ⅰ 専攻演習Ⅱ 専攻演習Ⅲ 卒業論文	専任	講師	林 典生	平成21年4月	ハーブ園芸論 ガーデニング 植物材料論	平成21年3月立澤文見准教授昇任のため平成22年度より担当者の変更(21) 「フラワー実習」「ガーデニング実習」「ガーデニング特別実習」は他に担当教員が2名いるため、支障はない。	
専任	講師	林 典生	平成21年4月	ガーデニング実習 園芸療法実習 園芸療法論 フラワー実習 ガーデニング特別実習 専攻演習Ⅰ 専攻演習Ⅱ 専攻演習Ⅲ 卒業論文	兼任	講師	金井 良一	平成23年10月	ガーデニング特別実習	教育効果に配慮し、担当者を変更(22)	
					兼任	講師	吉田 晋弥	平成23年10月	ガーデニング特別実習		
					兼任	講師	横山 浩二	平成23年10月	ガーデニング特別実習		
									ハーブ園芸論 ガーデニング 植物材料論	平成23年4月から立澤文見准教授昇任のため、担当科目を追加(21)	
専任	講師	柳 由貴子	平成21年4月	土壌学 土壌学各論 肥科学 環境保全専門実習 園芸生産環境実験 園芸生産環境専門実習 国外研修 専攻演習Ⅰ 専攻演習Ⅱ 専攻演習Ⅲ 卒業論文						准教授	平成21年4月から准教授へと職位変更(21)
専任	准教授	姜 景求	平成21年4月	環境園芸実験実習Ⅱ 農産物流通原論 農産物流通論 農産物貿易論 アジア農産物貿易論 農村調査実習 専攻演習Ⅰ 専攻演習Ⅱ 専攻演習Ⅲ 卒業論文						教授	平成22年4月から教授へと職位変更(22)
専任	准教授	菅野 善明	平成21年4月	樹木医学 微生物学 植物病理学 遺伝子工学 遺伝子工学実験 微生物利用学 総合防除論 コンピュータ演習 専攻演習Ⅰ 専攻演習Ⅱ 専攻演習Ⅲ 卒業論文	専任	准教授	日高 英二	平成22年4月	樹木医学	教授	教育効果に配慮し、専任教員を追加(22) 平成22年4月から教授へと職位変更(22)

届出時の計画				変更状況					備考	
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月		担当授業科目名
専	講師	岡島 直方	平成21年4月	基礎製図実習	専	教授	平岡 直樹	平成21年4月	造園緑地実習	教育効果に配慮し、担当者を追加(22)
				環境哲学						
				コンピュータ・CAD演習						
				建築学概論						
				造園緑地実習						
				国外研修						
				専攻演習Ⅰ						
				専攻演習Ⅱ						
				専攻演習Ⅲ						
				卒業論文						
専	准教授	竹内 真一	平成21年4月	樹木学	専	准教授	日高 英二	平成22年4月	樹木学	教育効果に配慮し、専任教員を追加(22)
				測量学Ⅰ					測量学Ⅰ	
				測量学実習Ⅰ				測量学実習Ⅰ		
				ピオトープ論						
				造園緑地実験Ⅰ						
				造園緑地実験Ⅱ						
				緑化工学						
				インターンシップ						
				専攻演習Ⅰ						
				専攻演習Ⅱ						
				専攻演習Ⅲ						
				卒業論文						
兼任	講師	島田 正春	平成21年4月	測量学Ⅱ	専	准教授	日高 英二	平成22年4月	測量学Ⅱ	教育効果に配慮し、専任教員を追加(22)
				測量学実習Ⅱ					測量学実習Ⅱ	
兼任	講師	小寺 尚	平成21年4月	造形デザイン演習	専	教授	永松 義博	平成22年4月	造形デザイン演習	教育効果に配慮し、専任教員を追加(22)
専	教授	平岡 直樹	平成21年4月	環境園芸実験実習Ⅰ	専	教授	永松 義博	平成22年4月	世界の庭園と歴史	教育効果に配慮し、専任教員を追加(22)
				自然緑地計画論						
				自然緑地計画論演習						
				世界の庭園と歴史						
				景観論						
				都市計画論						
				造園施工実習						
				専攻演習Ⅰ						
				専攻演習Ⅱ						
				専攻演習Ⅲ						
				卒業論文						
専	准教授	関西 剛康	平成21年4月	造園植栽論	専	教授	永松 義博	平成22年4月	庭園学	教育効果に配慮し、専任教員を追加(22)
				庭園学					庭園学演習	
				敷地計画論						
				敷地計画論演習						
				都市緑地論						
				都市緑地論演習						
				専攻演習Ⅰ						
				専攻演習Ⅱ						
				専攻演習Ⅲ						
				卒業論文						
										平成23年4月から教授へと職位変更(23)

届出時の計画					変更状況					
専	講師	林 典生	平成21年4月	ガーデニング植物材料論	専	教授	永松 義博	平成22年4月	ガーデニング植物材料論	教育効果に配慮し、専任教員を追加 (22)
専	准教授	川信 修治	平成21年4月	環境園芸実験実習Ⅰ 野菜園芸総論 コンピュータ演習 野菜・果樹専門実習 野菜園芸各論 施設園芸学 園芸生産環境実験 園芸生産環境専門実習 学外研修 専攻演習Ⅰ 専攻演習Ⅱ 専攻演習Ⅲ 卒業論文		教授				平成23年4月から教授へと職位変更 (23)

(注)・届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。

なお、当該設置に係る学部、学科等に所属しない教員であって、全学共通、学部共通などの授業科目を担当する教員組織に所属している場合は、〈〇〇学部 △△学科〉の箇所を「共通」とし、表を分けて作成してください。

- ・ 後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。
- ・ 辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。
- ・ 年齢は、「**認可時の計画**」には当該学部等の就任時における満年齢を、「**変更状況**」には平成24年5月1日現在の満年齢を記入してください。
- ・ 教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合(「新規採用」、「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。)は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は、「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し、及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。
- ・ 「事前伺い」により設置された学部等については、当該項目を記載する必要はありません。

(2) 専任教員数

届出時の計画						変更状況						備考
教授	准教授	講師	助教	計	助手	教授	准教授	講師	助教	計	助手	
9	9	3		21		14	7	1		22		
(9)	(9)	(3)	()	(21)	()	[+5]	[Δ2]	[Δ2]	[]	[+1]	[]	

(注)・「届出時の計画」には、届出時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、()内に開設時の状況を記入し、「変更状況」には、平成24年5月1日現在(就任予定の者を含む)の状況を記入するとともに、[]内に届出時の計画との増減数を記入してください。(記入例：1名減の場合：Δ1)

(3) 専任教員辞任等の理由

番号	職位	専任教員氏名	辞任（就任辞退を含む）等の理由
1	准教授	立澤 文見	他大学への就任
2			
3			

- (注) ・ 専任教員の辞任等の理由について、可能な限り具体的に記入してください。
・ 「事前伺い」により設置された学部等については、当該項目を記載する必要はありません。

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

学部設置届け出後の専任教員交代は望ましくないと思慮されるが、本人の意向を尊重した結果の措置である。担当科目については教育に支障のないよう対処する。
学生へは前期開講前のオリエンテーションで周知した。

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。
・ 「事前伺い」により設置された学部等については、当該項目を記載する必要はありません。

(3) 専任教員辞任等の理由

番 号	職 位	専任教員氏名	辞任（就任辞退を含む）等の理由
1			
2			
3			

- (注) ・ 届出時の計画からの専任教員の辞任等の理由について、可能な限り具体的に記入してください。
・ 「事前伺い」により設置された学部等については、当該項目を記載する必要はありません。

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

--

- (注) ・ 上記(3)の教員の辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。
・ 「事前伺い」により設置された学部等については、当該項目を記載する必要はありません。

6 留意事項に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設置計画履行状況 調 査 時 (22年1月)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (23年2月)	健康栄養学部食品健康学科、人間発達学部子ども教育学科の定員充足率が0.7倍未満となっていることから、学生確保に努めるとともに、今後の定員の在り方について検討すること。	<p>【食品健康学科】</p> <p>健康栄養学部食品健康学科では、平成22年度までの定員充足率が0.7倍未満であることを踏まえ、学生を食品系専門職業人として養成するため、実学的教育・研究の充実を図った。</p> <p>具体的な施策は、(1) 高大連携の実施、(2) 産官学連携による新食品の開発促進、(3) 醸造・発酵系教育研究の充実、(4) 酒造試験製造免許取得や設備の充実、(5) 就職支援科目（「キャリアフォーメーション」）の開設、(6) 資格取得支援科目（「フードサービス」）の開設、(7) 南九州大学卒業教員との連携強化である。結果として平成23年度入学定員充足率は0.87倍、平均定員充足率は0.72倍となり、好転の兆しが見えた。</p> <p>平成23年度は上記に加え、学科の教育内容をより明確にするため「食品開発科学科」に名称変更（届出予定）し、定員確保に努める。</p> <p>【子ども教育学科】</p> <p>人間発達学部子ども教育学科では、昨年度に比べ受験生は定員を上回っていたが、国立との併願が多く、想定以上の辞退者があった。今後はより一層の教育内容の発信につとめ認知度を高め受験生の増加を図りたい。</p>	
設置計画履行状況 調 査 時 (24年2月)	人間発達学部子ども教育学科の定員充足率が0.7倍未満となっていることから、学生確保に努めるとともに、入学定員の見直しについて検討すること。	教員による精力的な高校訪問や学生教育の活動を載せた学科独自のニュースレターを作成し、各高校や保護者に配布し、教育の内容の開示に努力してきた結果、少しずつ県内の進学校にも知られるようになってきた。定員充足まではまだであるが、今年度は定員80名に対して84名の入学手続き者があった。最後に8名の辞退があり76名が入学し、充足率は90%を越えた。引き続き認知度を高めるよう努力したい。	
設置計画履行状況 調 査 時 (●●年●●月)			

(注) ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された留意事項に対する履行状況等について具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば添付してください。

- ・ 定員管理に係る留意事項への履行状況については、指摘を受けた学科等についてのみ記入してください。
- ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
- ・ 「事前伺い」により設置された学部等については、当該項目を記載する必要はありません。

7 その他全般的事項

<環境園芸学部 環境園芸学科>

(1) 設置計画変更事項等

認可時の計画	変更内容・状況, 今後の見通しなど
記入例) ① 修了要件単位数 1 2 4 単位 必修科目 2 7 単位, 選択科目 3 3 1 単位 ② 施設・設備 a 講義室〇室 (〇㎡) b 自習室〇室 (〇㎡) c 図書〇〇冊	① 学生の専門性をより高めるため, 教養科目 (2 科目 2 単位), 専門選択科目 (1 科目 1 単位) の単位数を増やした。(2-① 授業科目参照) ② 届け出時の計画は記入の必要がなかったが, 概要は以下の通りである。 a 講義室 1 2 室 (1,666㎡) b 自習室 2 室 (80㎡) c 図書 112,418 冊 (大学全体)

- (注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で, 設置認可時の計画より変更のあったもの(未実施を含む。)及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
- ・ 認可申請書の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し, それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。(記入例参照)
 - ・ 「事前伺い」により設置された学部等については, 当該項目を記載する必要はありません。

(2) 教員の資質の維持向上の方策 (FD活動含む)

① 実施体制 a 委員会の設置状況 南九州大学FD推進委員会 b 委員会の開催状況 (教員の参加状況含む) 第1回 平成23年 6月 9日 (木) 教員15人参加 第2回 平成23年 6月 23日 (木) 教員15人参加 第3回 平成23年 7月 21日 (木) 教員15人参加 第4回 平成23年 9月 29日 (木) 教員15人参加 第5回 平成23年 10月 27日 (木) 教員15人参加 第6回 平成24年 2月 29日 (木) 教員15人参加 第7回 平成24年 3月 29日 (月) 教員15人参加 c 委員会の審議事項等 第1回 平成23年 6月 9日 (木) (1) 平成23年度FD推進委員会委員長の選出 (2) 平成22年度活動報告 (3) 平成23年度の活動計画について 第2回 平成23年 6月 23日 (木) (1) 平成23年度南九州大学FD活動計画(案)について (2) 平成23年度前期授業評価アンケート実施要領(案)について 第3回 平成23年 7月 21日 (木) (1) 平成23年度FD講演会の実施概要(案)について (2) FDニューズレターについて (3) 平成24年度新入生魅力度評価アンケートおよび卒業生満足度評価アンケート実施の概要(案)について 第4回 平成23年 9月 29日 (木) (1) 前期授業評価アンケートの結果(学科別)について (2) FD講演会報告(速報) (3) 平成24年度新入生魅力度評価アンケートおよび卒業生満足度評価アンケートの「全学的質問項目」
--

について

第5回 平成23年10月27日(木)

- (1) 平成24年度新入生魅力度評価アンケートおよび卒業生満足度評価アンケート内容について
- (2) 平成23年度後期授業評価アンケートおよび参観授業の実施について

第6回 平成24年 2月29日(木)

- (1) 後期授業評価アンケートの結果(学科別)について
- (2) 後期参観授業の結果(学科別)について
- (3) 平成24年度新入生魅力度評価アンケートおよび卒業生満足度評価アンケートについて
- (4) 平成23年度の南九州大学FD活動報告書のまとめ方について
- (5) 次年度予算の進捗状況報告について

第7回 平成24年 3月29日(月)

- (1) 平成23年度の南九州大学FD活動報告書の原稿確認について

② 実施状況

a 実施内容

- (1) 前期・後期授業評価アンケートの実施
- (2) 後期参観授業の実施
- (3) FD講演会の実施
- (4) 各学科独自のFD活動について
- (5) 平成24年度実施に向けたFD活動新規事業の協議
- (6) FD推進委員会活動報告書の作成

b 実施方法

- (1) 前期・後期授業評価アンケートの実施
教員の授業の教授法改善や学生の授業に対する満足度の把握等を目的として、平成21年度及び平成22年度に引き続き継続して実施した。授業評価アンケートは集計後、結果は各教員に開示し、各教員は結果に基づく授業改善報告書を作成した。また、学科別にアンケート集計値を出し、学科別にも分析を行った。
今回のアンケートで得られた各教員個人及び学科の問題点・改善点は今後の教育活動に活用していく。
- (2) 後期参観授業の実施
授業評価アンケートと同様に教員の教授法改善等を目的とし、平成21年度から実施している。
平成23年度は多くの先生方に参観いただくため、参加促進を行ったが、あまり効果が見られなかった。
多くの先生方に参観いただくことは、この事業にとって重要であるので、今後さらなる改善が必要である。
- (3) FD講演会の実施
FD活動全般の推進等を目的として平成22年度から実施している。平成23年度は1回の講演会を実施した。横浜国立大学国際総合科学部人間科学コース教授の中西新太郎先生を講師としてお願いし、「今日の若者理解と大学教育実践」という題目で講演を頂いた。多くの教職員の先生方に参加いただき、充実した講演会であった。
- (4) 各学科独自のFD活動について
一般的なFD活動と共に、各学科においても様々な活動をおこなっているが、その内容については後述する。
- (5) 平成24年度実施に向けたFD活動新規事業の協議
平成24年度に実施することを目標に新規のFD活動について、実施内容等を協議してきた。
平成24年度の新規事業として、魅力ある大学作りのための情報を収集することを目的に「新入生魅力度調査および卒業生満足度調査」を実施するよう準備してきた。
- (6) FD推進委員会活動報告書の作成
平成23年度の活動について、全学的FD活動、及び各学科及び教養・教職センターの活動についての報告書を学長宛に提出した。

c 開催状況(教員の参加状況含む)

- (1) 授業評価アンケートの実施
 - * 前期授業評価アンケートの実施
 - ・7月11日(月)～7月15日(金)間の実施を原則として実施した。
 - ・前期授業評価アンケートの実施及び授業改善報告書の提出依頼
 - * 後期授業評価アンケートの実施
 - ・12月6日(火)～12月9日(月)間の実施を原則として実施した。
 - ・後期授業評価アンケートの実施及び授業改善報告書の提出依頼
- (2) 後期参観授業の実施(大学全体で実施要領は決定)

環境園芸学科 平成23年12月1日(木)～12月15日(木) 実施教員5名, 参観教員7名
管理栄養学科 平成23年12月9日(金)及び12月12日(月) 実施教員2名, 参観教員4名
食品健康学科 平成23年12月12日(月)及び12月14日(水) 実施教員2名, 参観教員4名
子ども教育学科 平成23年12月12日(月) 実施教員2名, 参観教員7名
教養・教職センター 平成23年12月12日(月) 実施教員1名, 参観教員1名

(3) F D講演会の実施

日時:平成23年9月20日(火) 13時30分～15時30分

会場:南九州大学都城キャンパス本館1階多目的会議室及び宮崎キャンパス本館2階会議室

*テレビ会議システムにより開催

講演の題目「今日の若者理解と大学教育実践」

講師:横浜国立大学国際総合科学部人間科学コースの中西新太郎教授

参加者:64人(都城キャンパス38人, 宮崎キャンパス26人)

<講演の趣旨>

親の世代のライフコースがもはや通用しないにもかかわらず,大人からはそのギャップが理解されない若者たち,若者のトレンド・若者の関心の背景に何があるのかを恋愛文化の規範性の例をあげて触れられた。「生のミニマリズム」が浸透する中で,中国や韓国等を比べて大人には「夢のなさ」と感じられる若者のライフコースの変動について指摘された。後半は,今日の若者理解を踏まえた大学教育の課題と中西氏の大学教育実践の内容で会った。とりわけ,氏の横浜国立大学における300人前後の大人数の講義で1年生向けの社会学入門講義・90分の「講義の見取り図」や「試験」や「レポート」の教育的意味,さらに匿名性を確保した質問による「欄外のコミュニケーション」の実践に多くの学びを得た。

(4) 各学科独自のF D活動について

環境園芸学科

前年度から継続して活動や企画を繰り返したものが多く新規のものは少ないが,来年度は完成年度を迎えることから,環境園芸学科独自の新しい活動や企画を積極的に実施し,F D活動を推進する必要がある。

管理栄養学科

管理栄養学科の平成23年度の活動は,主に「教育」に関連する活動が充実してきている。しかし,南九州大学F D推進委員会規程にも書かれているとおり,F D活動は教育活動に限らず,研究活動,社会貢献,管理運営に関することも必要である。管理栄養学科においても,教育活動に関するF D活動だけでなく,研究活動などのF D活動も取り入れていくことが必要である。

食品健康学科

昨年度に引き続き,学生の教育・研究内容の向上に繋がる活動等を実施することができたと同時に,新たにリメディアル教育を導入することができた。

子ども教育学科

学科内F D研修会の実施,F Dに関わる外部研修の実施及び学部附属施設の活動等を実施した。

また,学生への支援については,学科会議において,担任や授業担当者から「気になる」学生に関する情報を報告し,教員全体で共有するようにしている。

教養・教職センター

F D関連の話ができる時間を設けた。参加できる先生3人が集まった講義の運営,教材の使い方,感想の回収,学生との関わり方が参考になった。

(5) 平成24年度の新規事業の提案

平成23年度F D活動では,今後の南九州大学のF D活動の活性化を目指して,次年度以降に新たに取り組む新規事業を委員会において1年間かけて準備してきた。その事業は「新入生魅力フォ調査及び卒業生満足度調査の実施」である。この調査の目的は,魅力ある大学づくりのための情報を収集するために実施するもので,新入生対象の調査では,本学のどのような点に魅力を感じ入学してくるのか,また,卒業生対象の調査では,本学のどのような点で満足を感じ(あるいは不満を感じ)卒業していくのかをアンケートにより調査する。

(6) F D推進委員会活動報告書の作成

平成23年度の活動について,全学的F D活動,及び各学科及び教養・教職センター活動についての報告書を学長宛に提出すると共に,全教職員に対してメールにて報告した。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

授業評価アンケート,参観授業,F D講演会他については全て教授会で結果を報告し,今後の授業改善等の参考とした。また,F D推進委員会の活動報告書については,前述のとおり,学長をはじめ全教職員に報告した。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

* 前期授業評価アンケートの実施

- ・ 7月11日（月）～7月15日（金）間の実施を原則として実施した。
- ・ 前期授業評価アンケートの実施及び授業改善報告書の提出依頼

* 後期授業評価アンケートの実施

- ・ 12月6日（火）～12月9日（月）間の実施を原則として実施した。
- ・ 後期授業評価アンケートの実施及び授業改善報告書の提出依頼

b 教員や学生への公開状況, 方法等

- ・ 学内掲示及び学生支援課に備え付けて公開した。

(注) ・ 「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

平成24年度は、設置後4年目の最終年度であり、4年生が配属された研究室で専攻の演習、実験・実習及び卒論に取り組む年度である。この研究室での教育・研究を支援するために、各研究室毎の教育・研究環境の整備が必要である。そのために、研究室への予算処置や教育研究の資材、備品などの支援を行っている。一方、共通備品の整備として、大型器機（元素分析装置、GCMS）の購入を行ない分析実験室に配置した。また、旧学部から移動した備品を活用するために、点検・修理の予算処置を行い教育研究・器機の整備を行っている。本学の特徴である附属センターを活用した実験・実習の実学教育を充実していくためには、室内のバイオサイエンスの整備と合わせてフィールドサイエンスの整備が必要である。今後、不足している後者の整備を計画的に行って行く必要がある。

上海交通大学農業・生物学院と南九州大学との学校間協定書に基づく国際交流事業（日本庭園作庭）を行い、この関係を活用して、口蹄疫や鳥インフルエンザで自粛していた学生の学外研修を実施した。今後、学生の視野を広めるために、造園分野以外にも学外の研修や交流の場を深めていきたい。また、学生の専門分野に対するモチベーションを維持し高めて行くために、学外から各専攻の専門家を招いた講演の機会を増やしていきたい。

地域との連携のひとつとして、高大連携と称して理科教育と農業教育に着目して、高校への講師の派遣や大学での模擬授業を積極的に行っている。これは、科学の知の普及への大学の使命と捉えて継続して行きたい。今後も、学生の学習習慣、生活習慣及び就職活動への支援体制を担当教員を貼り付けて継続していきたい。

今年度で全てのカリキュラムを網羅することになるが、設置時の趣旨・目的に沿った教育・研究が行われてきたのかを問いながら、全体的なカリキュラムの修正を検討して行きたい。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

- ・ 平成24年9月30日 公表予定

b 公表方法

- ・ 自己点検・評価報告書を刊行し、高等教育機関（100機関）配布予定
- ・ 大学ホームページ上に公開予定（平成24年9月末を予定）

③ 認証評価を受ける計画

- ・ 平成26年度に評価機関（日本高等教育評価機構）の評価を受けるべく、学内で検討中

(注) ・ 設置認可時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。
また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。
なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表の有無

(有) ・ (無)

b 公表時期（未公表の場合は予定時期）

(平成24年 7月 1日)